

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-106	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	地図081-903	高等地図帳 改訂版		

1. 編修の基本方針

世の中の情勢を学ぶにはまず“どこ”で起きた出来事なのかを知る必要があります。その“どこ”がわかるようになるためには日ごろから地図に慣れ親しみ、有効に活用することが大切だと考えます。

本地図帳は諸外国と日本の位置関係や結びつき、各国の現状や課題など多岐にわたる地理的な見方・考え方および地図を活用する技能を培うことを目的とし、地理歴史科だけでなく他科目・他教科ひいては今後の進路にも役立てるような知識を身に付けることができるようになることを念頭に置き編修しています。

① さまざまなスケールにより多角的な見方ができる世界の一般図

地図帳の原点である一般図をまず重視し、さまざまなスケールの地図を豊富に取り上げています。世界の国々のつながりを見ることができ、小縮尺な地図から、小都市まで調べることのできる大縮尺な地図まで多様な縮尺や図取りで世界を知ることができるように編成しています。

また全体を通して過度な飾りはせず、地図帳本来の見やすさを大切にしたシンプルなデザインとなるよう心がけています。



(1) 広範囲を眺める地図

世界の国々が地球上でどのように位置し、周辺諸国とつながりを持っているのか見渡せるような図を掲載しています。「ユーラシア」や「南北アメリカ」など大陸間の関係が見られるもの、「アフリカ」や「ヨーロッパ」など各大州・地域の構成国が一望できる図など広い視点から見ることのできる図を収録しています。

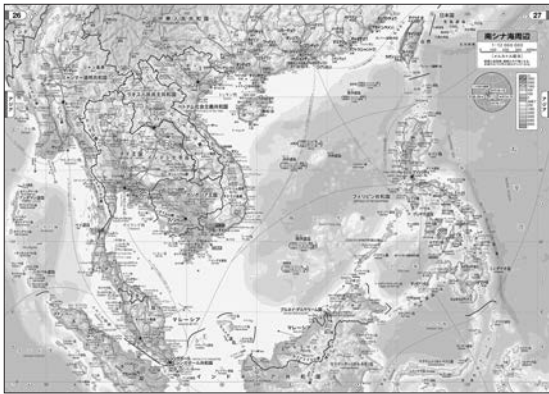
◀ P.14～15 ユーラシア



(2) 各国を詳しく知ることのできる拡大図

「南アジア」や「西・中央ヨーロッパ」「南アメリカ中央部」などの図では各国の都市や地形、世界遺産や名所など広域の図よりも詳細な情報を掲載しています。世界中の国の現況を確認するとともに、より多くの知識の拡充に貢献いたします。

◀ P.72～73 南アメリカ中央部



(3) 地理的に重要な地域を詳細に見る地図

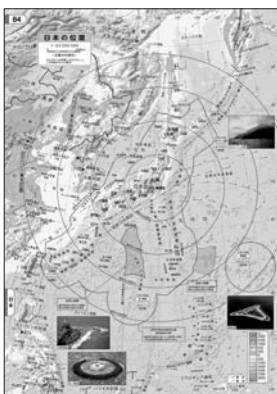
地理的に重要な地域に焦点をあてより詳しく知ることができるような地図を掲載しています。ニュースで話題に上ることも多い「南シナ海周辺」「イスラエル・パレスチナ周辺」「カフカス地方」や、主要な都市の多い「ベネルクスとその周辺」など多数取り上げています。

◀ P.26～27 南シナ海周辺

② 一般図，都市図，おもな都市の地形と多様な表現で構成された日本地図

我が国日本をよりよく知るために、本地図帳では日本の領土や他国との位置関係を一望できる図、全市町村をもれなく取り上げ政令指定都市や中核市、名所・名勝、史跡・遺跡、戦跡、温泉地など様々な要素を地方ごとに収録した一般図、テーマパークやスタジアム、著名な観光スポットなどと一緒都市の形態を見ることができる都市図など多種多様な地図を掲載しています。日本をさまざまな表現、スケールで見ることができるようになっています。

(1) 日本と周辺諸国のつながりや日本の領土を捉える地図



▲ P.84 日本の位置

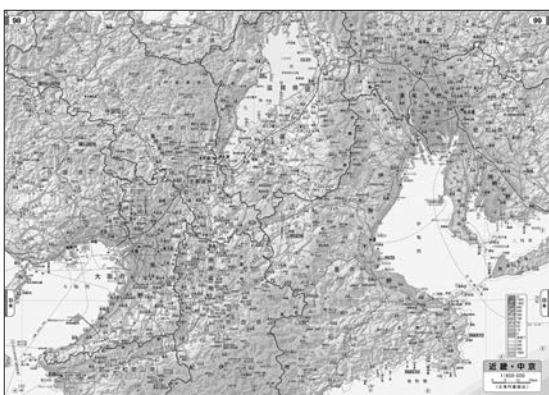


▲ P.88～89 日本列島北部

日本の国土と周辺諸国が一望できる「日本の位置」に東西南北端の写真を掲載し、日本の国土を視覚的に理解できるものにしました。

また「日本列島北部」や「日本列島南部」の図を設け日本の概形や都道府県の位置関係を見て取れるようにしています。

(2) 地方・地域ごとに適した図取りやスケールの一般図



▲ P.98～99 近畿・中京



▲ P.104～105 大阪～名古屋～東京

地方ごとに縮尺や範囲を検討し、それぞれが見やすいものとなるような紙面構成を心がけています。また人口集中地区である関西・関東には「近畿・中京」「関東中央部」という拡大図を設け、ゼロメートル地帯や微細な標高の違いがわかるように配色を工夫しています。

(3) 土地利用と地形を並べて見ることができる都市図



▲P.112～113 東京、東京の地形

札幌、東京、名古屋、大阪、広島など 14 の詳細な都市図を収録しています。各都市の土地利用や都市の形態を確認しながら、日本の政治・経済・歴史的拠点となっている大都市の現況を知ることができます。さらにその中の 8 都市については等高線の段彩だけで表現した図もあわせて収録し、どのような地形の上に各都市が成り立っているのかを見ることができます。

③すべての人が見やすい、使いやすい地図帳

一般図の地形表現から主題図まで地図帳全般を通して、ユニバーサルデザイン (UD) のフォントを主体としています。また地名などの文字を見やすく、読みやすいものにするため明るい色彩の紙面構成になるよう努めています。一般図では標高の段彩表現を平野の緑色系から山地・山脈の茶色系へと変化させることで、各地域の高低差や地形を明瞭に把握できるようにしました。また、地図学習において重要である国名や首都名、都道府県名は文字のサイズを大きくし白い縁取りをして、他の地名との差をつけ目に留まりやすく、検索しやすいようにしています。さらに色合いの濃い下地の上に置かれることの多い山地・山脈名や同色の下地の上に置かれる海洋名などにも白い縁取りをつけ色覚特性のある方に対しても配慮しています。

国界を太くし国の境目をはっきりさせています。

国名や首都名は目立つよう文字サイズを大きくし、白い縁取りをしています。

標高が高く色合いが濃くなることの多い山脈名には白い縁取りをしています。

同色の下地に置かれる海洋名にも白い縁取りをしています。



広範囲になることもある平野名などには文字に四角枠をつけ、文字の繋がりをわかりやすくしています。

▲P.68～69 中央アメリカ (部分)

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界の国々	冒頭のページにて世界の独立国の全てを見られる図を掲載し、一覧性を高めて知識の定着と正しい空間認識が身につくようにしています。(第一号)	前1～2
日本の行政区分 日本の位置	我が国の国土の現状や周辺諸国との位置関係が理解できるようにしています。(第五号)	前3 P.84
地形 気候・植生・土壌 日本主題図(1)～(2) 世界の地形	模式図や写真を多数取り上げ、世界や日本のさまざまな条件下で人々が生活していることを理解させるとともに、自然の重要性や災害の恐ろしさを考察できるようにしています。(第四号)	P.4～11 P.120～121 後2～後3
世界の一般図 ユーラシア・アメリカ、ユーラシア、東アジア、中国東部、ペキン周辺、長江下流域、珠江下流域、台湾、朝鮮半島、東南・南アジア、南シナ海周辺、南アジア、ガンジス川下流域、中央アジア、西アジア、クルディスタン、イスラエル・パレスチナ周辺、ペルシャ湾周辺、アフリカ、アフリカ北部、アフリカ中・南部、アフリカ大地溝帯、地中海、ヨーロッパ、西・中央ヨーロッパ、ヨーロッパ東部、イタリア・バルカン半島、イギリス・アイルランド、北ヨーロッパ・アイスランド、ベネルクスとその周辺、イベリア半島、スイス、カフカス地方、ユーラシア北部、南北アメリカ、北アメリカ、ハワイ諸島、北アメリカ中央部、アメリカ合衆国西部、アメリカ合衆国東部、中央アメリカ、南アメリカ、マゼラン海峡、南アメリカ中央部、太平洋・インド洋、オセアニア、オーストラリア東部、ニュージーランド、大西洋、北極・南極	世界の国土や環境の様相にかかわる事柄を一般図中に取り上げて、知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにしています。(第一号)	P.12～81 までの一般図部分
	おもな地形名称を取り上げ、世界のどのような地域に地理的特徴のある地形が存在するのかがわかりやすいようにしました。(第一号、第四号)	P.12～81 までの一般図部分
	世界の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ、他の地名と区別がつくような記号と色彩としています。(第四号)	P.12～81 までの一般図部分
	世界の一般図に国立公園の範囲を示す記号とその名称(一部)を取り上げています。(第四号)	P.42～43 P.62～69 P.76～79
	ヨーロッパの歴史や文化を考える上で役立つ聖堂・教会、宮殿・城の記号を掲載しています。(第四号)	P.48～49 P.56
	一般図には遺跡・史跡や名所をそれぞれ赤字、青文字にすることでわかりやすくなるような表記を用いています。(第五号)	P.12～81 までの一般図部分
	日本の一般図 南西諸島、沖縄本島、日本列島北部、日本列島南部、九州地方、中国地方、四国地方、近畿地方、近畿・中京、大阪～名古屋～東京、中部地方、関東地方、関東中央部、東北地方、北海道地方および各都市図	日本の国土や環境の様相にかかわる事柄を一般図中に取り上げて、知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにしています。(第一号)
日本の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ、他の地名と区別がつくような記号と色彩としています。(第四号)	P.85～119	
日本の一般図に国立公園・国定公園の範囲を示す記号とその名称、ラムサール条約指定地を示す記号を取り上げています。(第四号)	P.85～119	

日本主題図 (3)	農業など産業に関係する図を取り上げ、人間生活や産業との関わりを考察できるようにしています。(第二号)	P.122
環境問題 人口・人口問題 国家間の結合 国民所得・貿易	地球温暖化や大気汚染などのテーマから、地球の自然環境の保全や自然を保護していくとする姿勢を養える内容にしています。(第四号)	P.123
	人口・貿易・環境など今日の社会を現した内容の主題図を取り上げ、社会への興味や関心、社会参画への意識を持てるようにしています。(第三号)	P.123～125 P.134～135
言語・民族・宗教	言語や宗教がどのように分布しているのかを知ることができる主題図を掲載することで、世界の文化がわかるようにしています。(第五号)	P.126～127
農牧林水産業 資源・エネルギー・工業	農業や工業など産業に関連する主題図を設けることで、産業が人間生活とどのような関わり合いにあるかを考察できるようにしました。(第二号)	P.128～133

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

①地図を見るための工夫

大州ごとにページ番号のデザインやインデックスの色を統一することで、地図を探しやすくまた目的のページにたどり着きやすくなるようにしています。

世界の一般図にはインデックスマップを設け、今見ている場所が地球上のどの位置なのかを判断しやすいものになっています。また隣接地域が何ページにあるのかを示し検索性を上げています。

②地名表記の精選

本地図帳では多数の学術書ならびにインターネット上にてより多く取り上げられている地名表記や現地音に近い地名表記を比較検討し、世間的に認知度の高い地名を掲載しています。

③長期の使用に対応した用紙と製本

高等学校において地図帳は3年以上の継続的な使用が考えられるため、その使用期間に耐えられる用紙の選定や頑丈な製本方式による造本を心がけています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-106	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	地図081-903	高等地図帳 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本地図帳は学習指導要領「地理総合」「地理探究」を参考にして作成するとともに、主題図の項目は系統地理学的視点から配列をしています。また、地誌学習にも十分対応できるようにそれぞれの項目には地域ごとの詳細な図版も掲載しました。

(1) 一般図について

○世界の一般図に収録した世界遺産、国際空港、日本から直行便のある空港、高速自動車国道、戦跡、遺跡・史跡、ロケット発射場など、日本の一般図に収録した政令指定都市、中核市、世界遺産、ラムサール条約指定地、名所・名勝、史跡・遺跡、テーマパークなどの名称は、記号・文字囲みや色を用いて示すことによって、一般の地名と一目で区別できるようにしています。さらにこれらの地名などを増やすことによって、地理の分野だけではなく、歴史総合や公共の授業においても効果的に利用できるようにしました。

○日本の一般図では、縮尺を100万分の1から115万分の1（北海道地方、東北地方を除く）とし、拡大して見せる地域と範囲を広くして見せる地域に分けて掲載しています。これによりほとんどの都道府県が図取りで切られることなく見ることができるようになっています。人口が集中して地図情報が過密な関東中央部と近畿・中京については60万分の1の拡大図で補っています。これらの一般図は、学校における授業だけではなく日常生活においても広く利用できるように配慮し、最新の資料を収録して、普遍性の高い、辞書的な役割を持たせました。

(2) 主題図について

○地形や気候などの自然環境は、地理の分野の中でも基礎・基本となるため、本地図帳の冒頭部分に配置しました。また、地理総合では自然環境と防災が設けられていることを考慮し、地形の最後に自然災害を学ぶページや日本主題図に火山や地震の図を設けています。

○言語・民族・宗教、農林水産業、資源・エネルギーなど世界主題図のページについては、世界図レベルで大観させるとともに、主要な地域については地域図レベルの主題図を収録して詳細に学習できるようにしています。

○地理総合、地理探究ともに地球的課題を扱っているため、人口問題や環境問題などを扱うページを設けています。

○日本の主題図では、自然・人口・産業などさまざまなテーマの主題図を掲載し、多面的に日本を捉えられるようにした。農業分野では、イラストを併記して親しみの持てるものとししました。

(3) 統計資料・索引について

○統計資料については、基本的な事項を取り上げ、世界各国の最新データが読み取れるようにし、索引については国名や首都名、県庁所在都市などに太字を用いて検索しやすいようになっています。

○統計資料の一部はカラー化を行い、自然統計ではイラストを用いるなど見やすさや興味・関心が持てるようなレイアウトにしています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
世界の国々 地球に関する数値 等時帯	地理総合 A(1) 地図や地理情報システムと現代世界 地理探究 B(1) 現代世界の地域区分	前 1～2	
日本の行政区分 日本の位置	地理総合 A(1) 地図や地理情報システムと現代世界 地理探究 C(1) 持続可能な国土像の探究	前 3 P.84	
地形	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理総合 C(1) 自然環境と防災 地理探究 A(1) 自然環境	P.4～7	
気候・植生・土壌	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理探究 A(1) 自然環境	P.8～11	
世界の一般図 (ユーラシア・アメリカ～北極・南極)	世界の一般図については、高等学校教科用図書検定基準 [地理歴史科「地図」] に基づいて作成。	P.12～81 の 一般図部分	
世界の都市図	高等学校教科用図書検定基準 [地理歴史科「地図」] に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.82～83	
日本の一般図・都市図 (日本列島北部～ 北海道地方)	日本の一般図については、高等学校教科用図書検定基準 [地理歴史科「地図」] に基づいて作成。 都市図は、高等学校教科用図書検定基準 [地理歴史科「地図」] に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.85～119 の 一般図部分	
日本主題図	地理総合 C(1) 自然環境と防災 地理探究 A(1) 自然環境 地理探究 A(2) 資源, 産業 地理探究 A(4) 人口, 都市・村落 地理探究 B(2) 現代世界の諸地域 地理探究 C(1) 持続可能な国土像の探究	P.120～122	
環境問題	地理総合 B(2) 地球的課題と国際協力 地理探究 A(1) 自然環境	P.123	
人口・人口問題	地理総合 B(2) 地球的課題と国際協力 地理探究 A(4) 人口, 都市・村落	P.124～125	
言語・民族・宗教	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理探究 A(5) 生活文化, 民族・宗教	P.126～127	
農牧林水産業	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理総合 B(2) 地球的課題と国際協力 地理探究 A(2) 資源, 産業	P.128～130	
資源・エネルギー・工業	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理総合 B(2) 地球的課題と国際協力 地理探究 A(2) 資源, 産業	P.131～133	

世界の航空路・国家間の結合	地理総合 A(1) 地図や地理情報システムと現代世界 地理総合 B(2) 地球的課題と国際協力 地理探究 A(3) 交通・通信, 観光 地理探究 B(1) 現代世界の地域区分	P.134	
国民所得・貿易	地理総合 A(1) 地図や地理情報システムと現代世界 地理探究 A(2) 資源, 産業 地理探究 A(3) 交通・通信, 観光	P.135	
地図投影法	地理総合 A(1) 地図や地理情報システムと現代世界	P.136	
統計資料	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準 [地理歴史科「地図」] に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.137~149	
地名索引 (世界), 地名索引 (日本)	左に示した索引は, 高等学校教科用図書検定基準 [地理歴史科「地図」] に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.150~167	
地質年代表	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理総合 C(1) 自然環境と防災 地理探究 A(1) 自然環境	P.168	
地図の歴史	地理総合 A(1) 地図や地理情報システムと現代世界	後 1	
世界の地形	地理総合 B(1) 生活文化の多様性と国際理解 地理総合 C(1) 自然環境と防災 地理探究 A(1) 自然環境	後 2~3	